



おすすめの一冊

Kayo『フランス紀行 マリー・アントワネットの足跡を探して』

この本を紹介する目的は3つあります。①本を書く、あるいは本を読むための新しいメディアを知る②誰でも知っているマリー・アントワネットを軸にしたフランス旅行の新しい楽しみ方を知る③現在の国際秩序を形作る契機の一つとなったフランス革命の裏面を知る——です。

①著者によると、この本は頼んでも出版してくれる出版社がなかったため、自費出版でamazonから販売することになったそうです。そしてインターネットやメールを介して著者はこの本と読者をつないでいます。著者はKayo(ブログでは性別FEMALE)ですが、歴史に詳しく、外国語も堪能だと思われます。読みやすい語り口で話を進め、一気にこの本を読み切らせてしまう力量があります。このことから、誰か歴史学者か、何らかの理由で本名を知られたくない人がKayoという筆名を使って新しい本の書き方を検証しているとも思えるのです。通常、



フランス紀行
マリー・アントワネットの足跡を探して
Kayo 著
NextPublishing Authors Press

本を出版したいと願う人は自分の名前を前面に出すのが自然だからです。これからは本を書く、また読む人も、この本のように自費出版をしてamazonなどで売るという新しい形(出版社を介した印税と違い、売れるとほぼ全額が収入になり、インターネットなどを介して読者との交流も自由)の

本との出会いが多くなるでしょう。②マリー・アントワネットを軸にしたフランス旅行の新しい楽しみ方がわかります。鉄道の乗り方をはじめ、地理や宮殿などの説明が詳しく書かれています。私たちがあまり目にする事がないか、目にしたとしても深く気が留めないでいる建物や絵画などの画像

が多く掲載されています。著者のブログによれば、もつとたくさん資料があるとのこと、これもインターネットで順次公開されるかもしれません。

③フランス革命の裏面については、当時の関係者の言動が詳しく語られていますし、俗説と異なるマリー・アントワネットの由緒ある貴族としての気高さも描写されています。

マリー・アントワネットはオーストリアの有名なマリア・テレジアの娘であり、わずか14歳の時に政略結婚で当時フランス王太子であった後のルイ16世に嫁いだのです。何の苦勞も知らない若い娘が複雑な利害が絡む宮廷を牛耳ることができるわけもないし、ルイ16世も皇帝としては資質に欠けていたようです。加えて、貴族間の陰謀と時代の流れが災いしました。一般的に知られることが少ない処刑にいたるまでの詳しい事情は、本書の第四章「革命そして死」を読んでください。

村田 光範

むらた みつりの

1960年千葉大学医学部卒業。1983年東京女子医科大学第二病院小児科教授に就任。1994年同病院院長を兼任。2000年同大学を定年退職し名誉教授に。その後、和洋女子大学特任教授などを務め、現在は同大学大学院客員教授。